

(令和4年12月静岡県議会定例会)

林 芳久仁 議員(ふじのくに県民クラブ)の一般質問 に対する答弁
(質問日:2022/12/12 3番目)



答弁者 : 001知事

通告番号 : 1-()-

関係所属 : 交通基盤部
港湾振興課

キーワード : 清水港からの農産物輸出促進について

質問要旨 : 清水港は、令和3年8月に全国で初めて、国土交通省及び農林水産省から「産地・港湾連携型農林水産物・食品輸出促進計画」の認定を受け、産直港湾として、本県を含め、山梨県や長野県、RORO船で九州から運ばれた農産物を集約し、清水港から輸出する取組を進めている。

本年2月議会での私の一般質問に対し、鮮度保持に必要なワールドチェーンを確保し、官民連携で清水港からの農産物輸出拡大に一丸となって取り組むとの答弁があり、静岡市中央卸売市場に農産物の鮮度を保持するためのドックシェルターが設置、清水港ではリーファーコンテナ用電源設備の供用を開始した。

一方、政府は日本からの農林水産物・食品輸出について、円安効果を活用し、2025年までに2兆円の目標を前倒しするとし、10月に閣議決定した経済対策に関連施策を盛り込んだ。

全国初の「産直港湾」に指定された清水港でも、円安のメリットを最大限取り込んで、輸出拡大を加速することで、計画目標の前倒しを達成することが期待できると考える。

そこで、今後、清水港からの農産物輸出拡大を加速化させるためにどのように取り組んでいくのか、県の見解を伺う。

林議員にお答えいたします。まず、清水港からの農産物輸出促進についてであります。

清水港は、本県の産業、経済を支える国際物流拠点であります。さらに昨年、中部横断自動車が開通いたしました。ふじのくにの奥座敷である山梨県、長野県がより身近になりました。本県の質の高いいわゆる農芸品と合わせて両県産品を輸出する取組が、順調に動き出しております。

ご案内のとおり、バイシズオカ、これがバイふじのくに、さらにバイ山の洲に発展をしておりますが、同時にそれをPRするという含んでおまして、いわばセル山の洲、売るということですが、という動きも出てまいりました。清水港における農産物の輸出促進に向けまして、本年6月にはドックシェルターの供用が開始されました。7月には、県の「山の洲産品の清水港輸出拡大事業」に採択された事業者が、その設備を活用して、山梨県産の桃や静岡県産の野菜を香港に輸出しております。現地到着時の品質も良好で、当地のスーパーでは、箱入りの桃が飛ぶように売れるなど、好評を博したところでございます。

さらに、今月20日には、国が甲府市で開催する、「清水港農産物輸出セミナー」に参画し、JA静岡経済連、また、ジェトロ静岡などの関係機関とともに、農産物輸出の一層の拡大に向けて、山梨、長野等の農業者に清水港の利用を呼びかけてまいります。

また、新たな取組といたしまして、本年11月に農産物輸出にチャレンジする事業者を資金面で後押しする金融機関と連携した「海外展開セミナー」を開催するなど、県内及び山梨県の荷主や経済関係者等を対象として、農産物輸出拡大に幅広く取り組んでいるところであります。

加えて、RORO船航路で結ばれた大分県や船会社とともに、熊本、宮崎など九州の5地域で、定期航路の利用促進に向けた説明会を開催し、九州地域からの集荷を拡大させるなど清水港の更なる輸出の促進に向けたポートマーケティング活動も強化してまいります。

議員御指摘のとおり、円安の影響により、農産物の輸出を加速するチャンスであります。この好機を逃さず、事業者、金融機関などの関係機関と緊密に連携し、計画目標を前倒しできるよう、世界に開かれた海の玄関口である清水港からの農芸品、農産物の更なる輸出促進に取り組んでまいります。